

第 2 1 1 回東海地区企業動向調査について

2025年7月23日

株式会社 十六総合研究所

十六フィナンシャルグループの株式会社十六総合研究所（代表取締役社長 澤田 大輔）は、岐阜県・愛知県の企業に対し「第211回企業動向調査」を実施しましたので、その結果を別紙のとおり公表いたします。

<別紙>第211回東海地区企業動向調査

以 上

【ご照会先：十六フィナンシャルグループ（広報） TEL 058-266-2511】

2025 年 7 月 23 日

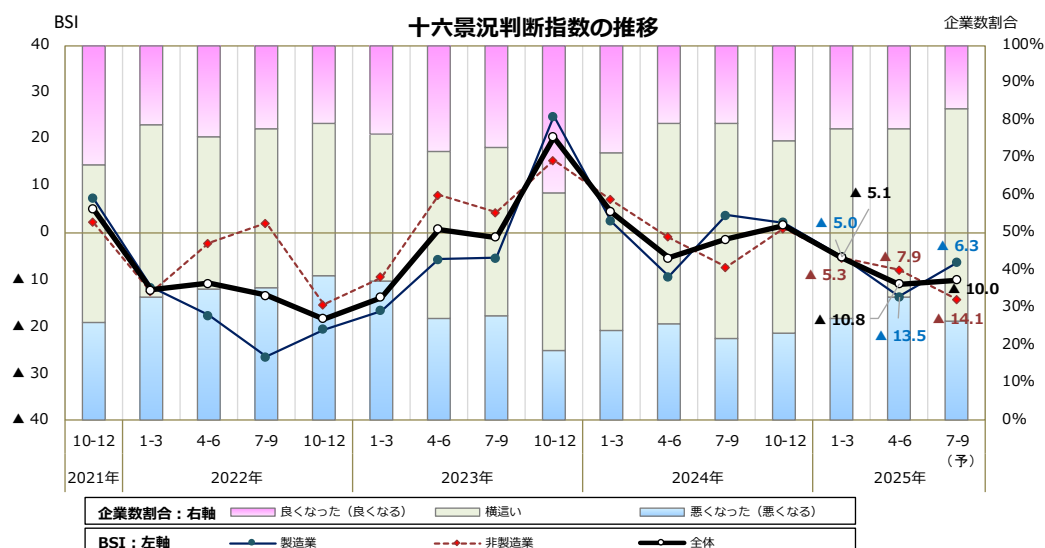
第 211 回 東海地区企業動向調査

『 2025 年 4～6 月期 十六景況判断指数 調査報告 』

- ① 十六景況判断指数は▲10.8(前期比 5.7 増減)と 2 期連続で低下した。来期は▲10.0(今期比 0.8 増減)と一部では改善が見込まれるものの、景気の不確実性が高く、予断を許さない状況が続く。
- ② 経営上の最大の問題点は製造業では「売上の停滞・減少」が 24.8%で 1 位、非製造業では「売上げ・受注競争の激化」が 25.8%で 1 位に浮上した。
- ③ 雇用人員の過不足感 BSI(過剰-不足)は製造業が▲19.7(前期比 20.3 増減)と大きく上昇、全体でも▲34.8(同 8.9 増減)と上昇したものの、依然として幅広い業種で人手不足が深刻である。

調査要領

1. 調査方法 岐阜県、愛知県の企業に対し、Web と郵送を併用しアンケートを実施
2. 調査時期 2025 年 6 月 1 日～16 日
3. 調査期間 今期：2025 年 4 月 ～ 6 月期 実績(見込み)
来期：2025 年 7 月 ～ 9 月期 予想
4. 回答状況 有効回答数 241 社(岐阜県、愛知県の企業 600 社、有効回答率 40.2%)
5. 本調査の経緯 第 1 回調査 1966 年 1 月(半期ごと)、1980 年 6 月より四半期ごと



ご 照 会 先
 十六総合研究所 企画事業部
 研究員 藤木 由江
 岐阜県岐阜市神田町 7-12
 TEL 080-3483-8489

***十六景況判断指数**

岐阜県、愛知県内の企業、600社を対象に、自社の業況について、前年同期と比べて「よくなった/よくなる」と回答した割合から「悪くなった/悪くなる」と回答した割合を差し引いて求めた指標

***BSI (Business Survey Index)**

各項目につき、前年同期と比べて好転（増加・上昇・容易・過大）と回答した割合から、悪化（減少・低下・困難・不足）と回答した割合を差し引いて求めた指標

1. 今期実績と来期予想

(1) 十六景況判断指数

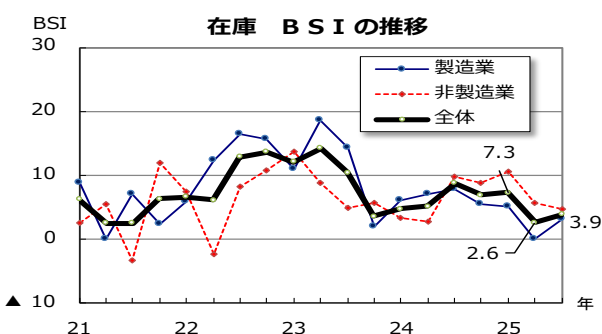
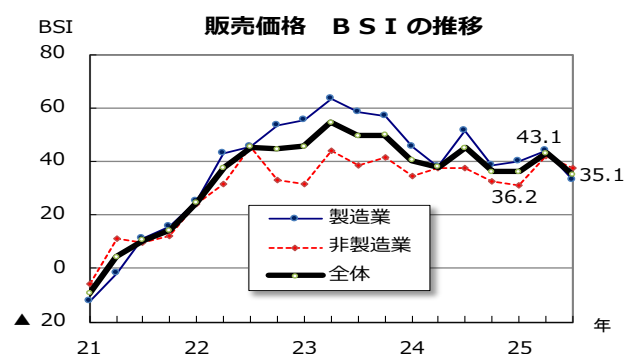
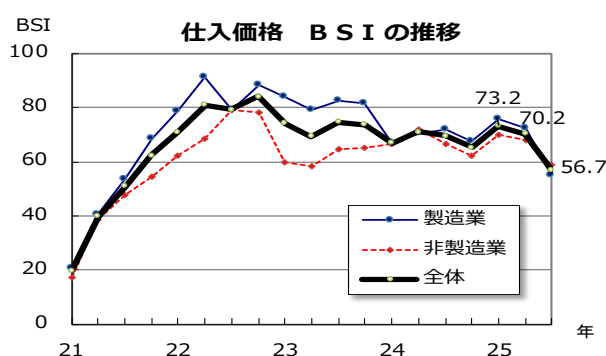
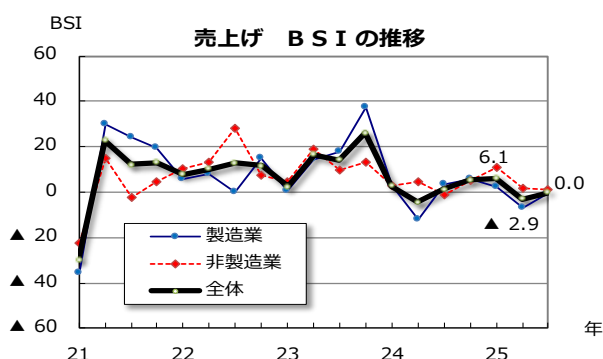
十六景況判断指数は、▲10.8（前期比 5.7 増減）と2期連続で低下した。業種別にみると、製造業は▲13.5（同 8.5 増減）、非製造業は▲7.9（同 2.6 増減）といずれも低下した。

物価高による個人消費の低迷や、高止まりする仕入価格の販売価格への転嫁の遅れに加え、中東情勢やトランプ関税など海外情勢の不透明感が重荷とな

ったとみられる。

来期の十六景況判断指数は、▲10.0（今期比 0.8 増減）と一部では改善が見込まれるものの、景気の不確実性が高く、予断を許さない状況が続く。業種別にみると、製造業は▲6.3（同 7.2 増減）と上昇するものの、非製造業は▲14.1（同 6.2 増減）と低下する見込みである。

(2) 各項目のBSIの推移



売上 BSI は▲2.9（前期比 9.0 増減）と大きく低下し、来期は 0.0 とやや上昇する見込みである。

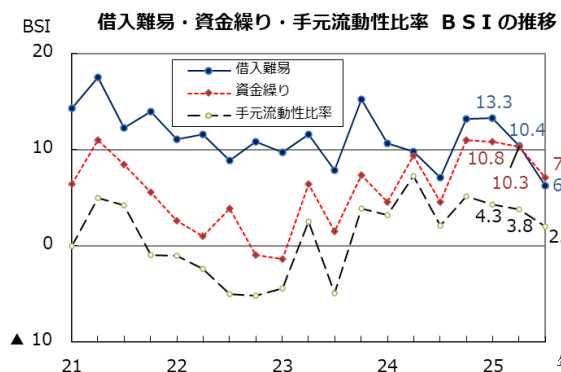
仕入価格 BSI は 70.2（同 3.0 増減）と低下し、来期は 56.7 と大きく低下する見込みである。

販売価格 BSI は 43.1（同 6.9 増減）と上昇し、来期は 35.1 と低下する見込みである。

在庫 BSI は 2.6（同 4.7 増減）と低下し、来期は 3.9 とやや上昇する見込みである。

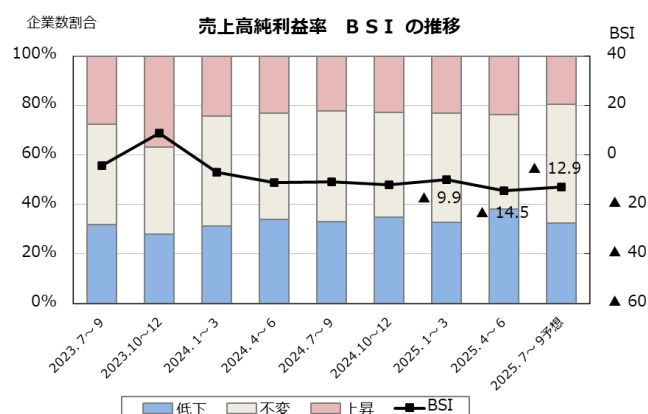
(3) 借入難易・資金繰り・手元流動性比率

今期の借入難易 BSI (容易－困難) は 10.4 (前期比 2.9 増減) と低下し、資金繰り BSI (楽－苦しい) は 10.3 (同 0.5 増減)、手元流動性比率 BSI (上昇－低下) は 3.8 (同 0.5 増減) といずれも小幅な低下が続いている。来期の借入難易 BSI は 6.3、資金繰り BSI は 7.1、手元流動性比率 BSI は 2.0 といずれも低下する見込みである。



(4) 売上高純利益率

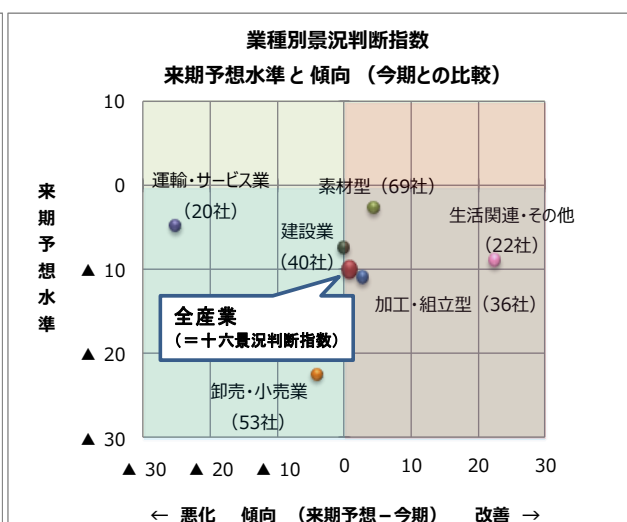
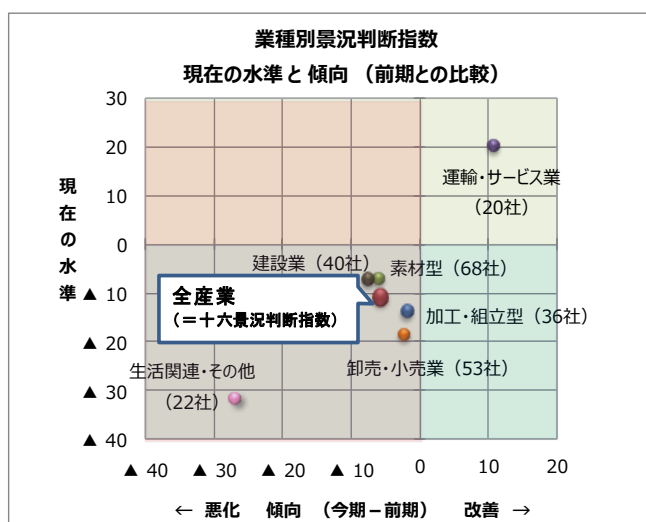
今期の売上高純利益率 BSI は▲14.5 (前期比 4.6 増減) と低下した。上昇要因は「売上げ増加」が最も多く 76.8%、2 位は「人件費減少」で 10.7%だった。低下要因は「売上げ減少」が最も多く 50.0%、次いで「原材料・仕入商品高」で 27.9%だった。来期の BSI は▲12.9 とやや上昇する見込みである。



2. 業種別の動向

調査対象から鉱業を除いた 20 業種を 6 グループに分け、景況判断指数の水準と傾向を示した。今期は運輸・サービス業のグループのみ BSI (よくなっ

た－悪くなった) が前期比改善した。来期は生活関連・その他と素材型、加工・組立型のグループで BSI が今期比改善する見込みである。



注) 【製造業の分類】

素材型： 木材・木製品、紙・紙加工品、化学工業、窯業・土石製品、鉄鋼・非鉄金属、刃物・金属製品、プラスチック・その他製造業

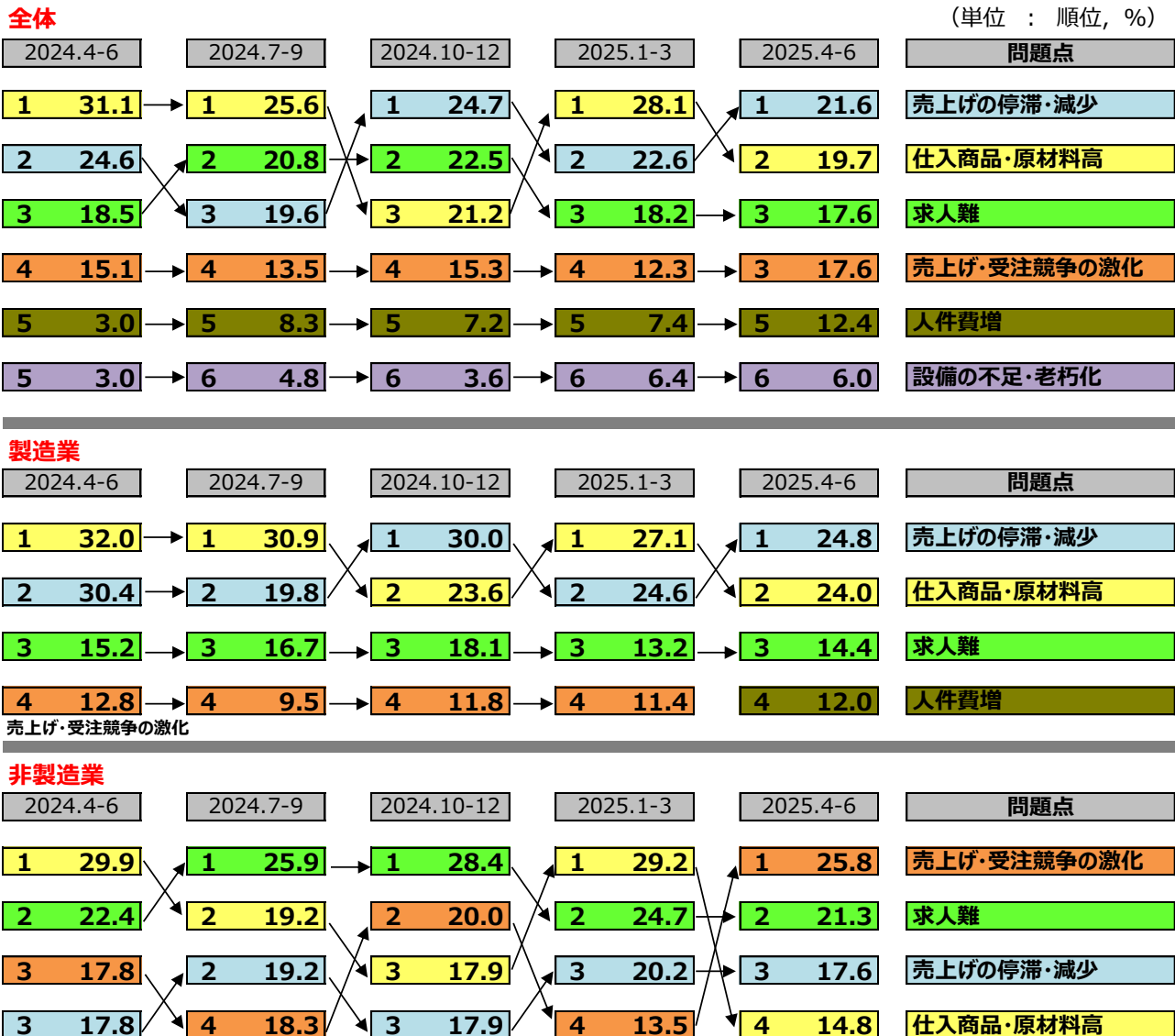
加工・組立型： 一般機械器具、電気機械器具、輸送用機械器具

生活関連・その他： 食料品、繊維工業、衣類その他繊維製品、家具・装備品、出版・印刷

※「鉱業」は回答企業数が少数であったため、分析の対象外とした。

3. 当面する経営上の最大の問題点

当面する経営上の最大の問題点（単一回答）順位の推移



当面する経営上の最大の問題点を尋ねたところ、前回2位であった「売上げの停滞・減少」が21.6%で1位に再浮上した。「仕入商品・原材料高」が19.7%で2位、「求人難」が17.6%で3位となった。

業種別でみると、製造業も「売上げの停滞・減少」が24.8%で1位、「仕入商品・原材料高」が24.0%で2位だった。非製造業は「売上げ・受注競争の激化」が25.8%で1位、「求人難」が21.3%で2位だった。

自由コメント欄では「対米関税など先の見通しが立たないので方針も決めにくい（輸送用機械器具）」など、米国の関税政策の影響を懸念する声が寄せられた。また、「会社の売上げが下がる中、物価上昇に賃上げがついていけるか心配（鋳業）」、「仕入価格高騰、人件費（最低賃金）上昇により八方塞がり（刃物・金属製品）」などの声もあり、企業収益を圧迫する要因が多岐にわたっていることがうかがえる。

4. 設備投資

設備投資実施状況

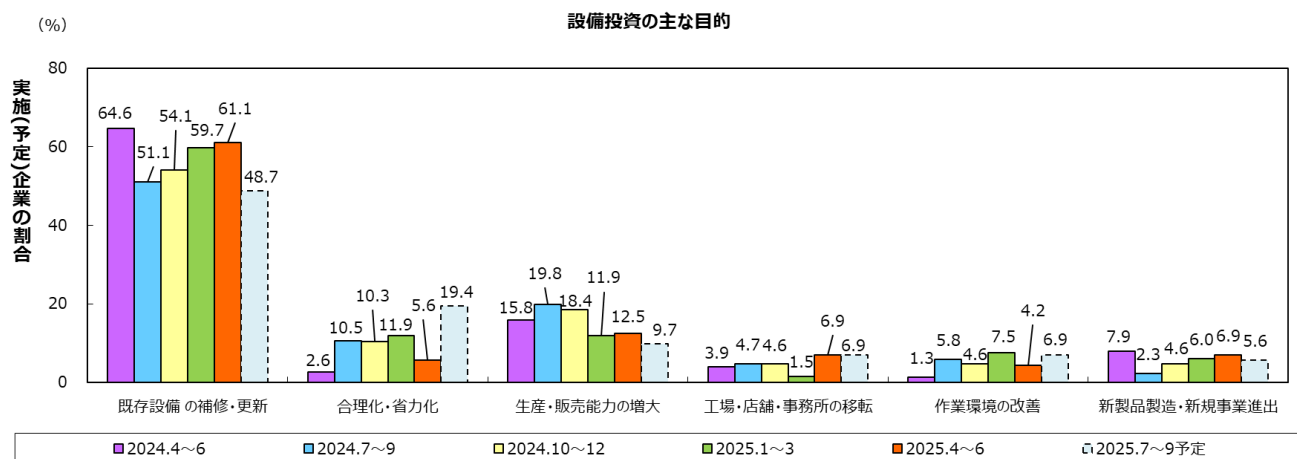
(単位：％，百万円)

			全 体			製 造 業			非 製 造 業		
			実施 企業 割合	投資 総額	1企業 当たり 平均 投資額	実施 企業 割合	投資 総額	1企業 当たり 平均 投資額	実施 企業 割合	投資 総額	1企業 当たり 平均 投資額
2023	1～3	実績	38.3%	11,271	157	45.8%	6,486	127	27.9%	4,785	228
2023	4～6	実績	33.2%	10,680	148	40.0%	6,871	146	25.5%	3,808	152
2023	7～9	実績	38.1%	15,915	114	46.9%	3,770	47	27.0%	12,145	206
2023	10～12	実績	40.1%	7,581	56	44.9%	3,210	43	34.7%	4,371	72
2024	1～3	実績	31.3%	12,337	190	38.7%	9,380	213	22.4%	2,957	141
2024	4～6	実績	31.5%	6,530	40	35.4%	4,235	47	27.0%	2,294	31
2024	7～9	実績	36.7%	5,165	32	41.4%	4,137	48	31.2%	1,028	14
2024	10～12	実績	38.5%	9,599	113	41.9%	6,325	119	34.0%	3,274	102
2025	1～3	実績	31.9%	4,684	71	34.2%	3,566	89	29.0%	1,118	43
2025	4～6	実績	30.4%	4,659	66	32.3%	2,913	73	28.3%	1,746	56
2025	7～9	予定	31.1%	6,898	99	33.6%	5,383	131	28.3%	1,515	52

今期、設備投資を実施した企業の割合は製造業が32.3%（前期比 1.9 ㊦減）、非製造業が 28.3%（同 0.7 ㊦減）といずれも低下し、全体では 30.4%（同 1.5 ㊦減）と過去 3 年間で最も低くなった。先行きの不透明感、売上不振、設備の高騰などを理由に、設備投資に慎重な姿勢をとる企業が増えたと考え

られる。

来期、設備投資を予定する企業の割合は製造業が 33.6%（今期比 1.3 ㊦増）とやや上昇、非製造業が 28.3%（同±0.0 ㊦）と横ばいで推移し、全体では 31.1%（同 0.7 ㊦増）と底堅く推移する見込みである。



今期の設備投資の主な目的は、1 位が「既存設備の補修・更新」で 61.1%（前期比 1.4 ㊦増）、2 位が 12.5%の「生産・販売能力の増大」（同 0.6 ㊦増）、だった。

来期は、引き続き 1 位が「既存設備の補修・更新」

で 48.7%（今期比 12.4 ㊦減）、2 位が「合理化・省力化」で 19.4%（同 13.8 ㊦増）、3 位が「生産・販売能力の増大」で 9.7%（同 2.8 ㊦減）だった。景気の先行きが不透明ななか、生産性の向上を推進する企業が増えていることがうかがえる。

5. 雇用

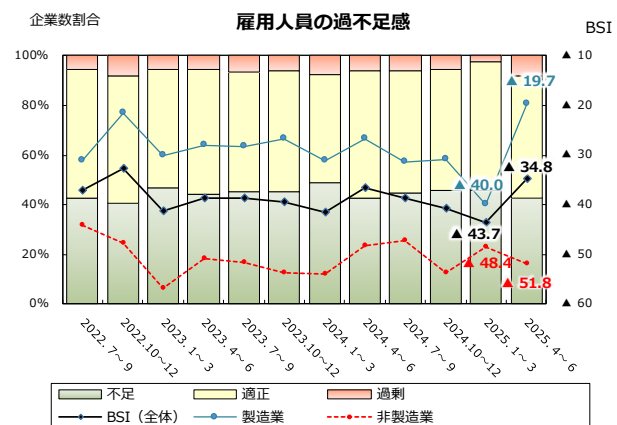
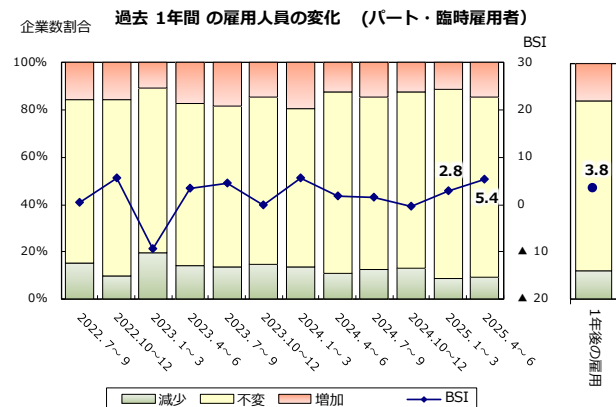
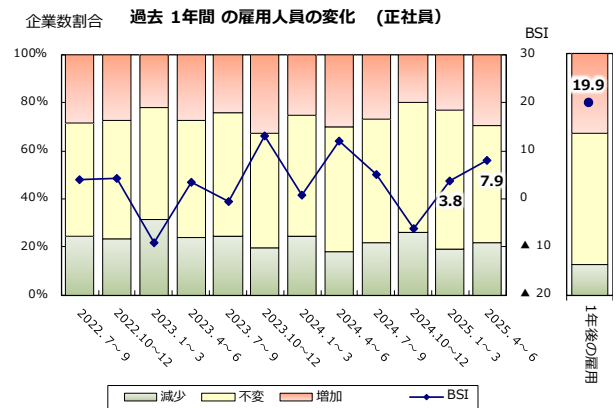
過去1年間の雇用人員の変化BSI（増加－減少）は、正社員が7.9（前期比4.1 ㊦増）、パート・臨時雇用者も5.4（同2.6 ㊦増）といずれも上昇した。

また、1年後の雇用人員の変化BSIは、正社員が19.9、パート・臨時雇用者が3.8と、正社員の増加を見込む企業が多い傾向が続いている。

雇用人員の過不足感BSI（過剰－不足）は▲34.8（前期比8.9 ㊦増）と上昇したものの、「不足」と回答した割合は依然として約4～5割の高水準で推移している。業種別にみると、製造業が▲19.7（同20.3 ㊦増）と大きく上昇する一方、非製造業は▲51.8（同3.4 ㊦減）と低下した。

自由コメント欄では「上場企業の初任給の急上昇、賃上げ幅の大きさを中小企業と比較すると、中小企業が追随していくことに限界を感じる。また、採用面も、明らかにビハインド感が否めず、人材確保・獲得は厳しい状況。中小企業を取り巻く経済環境の厳しさを実感する。（輸送用機械器具）」、「中小・零細企業では賃上げ原資確保ができないなか、人の確保、維持のために多少無理してでも賃上げを繰り返し、どんどん固定費増となり苦しさが増すばかり。対応検討するも、なかなか打開策もなく悩ましい。（プラスチック・その他製造業）」など人件費の高騰や人材の確保に苦慮する声が寄せられた。BSIがプラスとなった業種は繊維業界と、輸送用機械器具のみであり、幅広い業種で人手が不足している。

（研究員 藤木 由江）



6. Data

回答企業の業種別構成

業種	企業数	構成比(%)
製造業	127	52.7
食料品	8	3.3
繊維工業	3	1.2
衣服・その他の繊維製品	4	1.7
木材・木製品	6	2.5
家具・装備品	2	0.8
紙・紙加工品	6	2.5
出版・印刷	5	2.1
化学工業	3	1.2
窯業・土石製品	12	5.0
鉄鋼・非鉄金属	9	3.7
刃物・金属製品	14	5.8
一般機械器具	13	5.4
電気機械器具	4	1.7
輸送用機械器具	19	7.9
プラスチック・その他製造業	19	7.9
非製造業	114	47.3
鉱業	1	0.4
建設業	40	16.6
卸売業	39	16.2
小売業	14	5.8
運輸業	7	2.9
サービス業	13	5.4
合計	241	100.0

回答企業の資本金別・従業員規模別・地域別構成

資本金	企業数	構成比(%)
1,000万円未満	14	5.8
1,000万円以上～3,000万円未満	102	42.4
3,000万円以上～5,000万円未満	54	22.4
5,000万円以上～1億円未満	49	20.3
1億円以上	22	9.1
合計	241	100

従業員数	企業数	構成比(%)
10人未満	25	10.4
10人以上～50人未満	96	39.8
50人以上～100人未満	52	21.6
100人以上～300人未満	49	20.3
300人以上～500人未満	8	3.3
500人以上	11	4.6
合計	241	100

地域	企業数	構成比(%)
岐阜県	155	64.3
愛知県	86	35.7
合計	241	100

十六景況判断指数 の推移

四半期	2021. 1～3	2021. 4～6	2021. 7～9	2021. 10～12	2022. 1～3	2022. 4～6	2022. 7～9	2022. 10～12	2023. 1～3	2023. 4～6	2023. 7～9	2023. 10～12	2024. 1～3	2024. 4～6	2024. 7～9	2024. 10～12	2025. 1～3	2025. 4～6	2025. 7 ～9 予想
良くなった	23.4	42.7	27.6	31.5	20.9	24.3	22.2	20.6	23.4	28.1	27.0	39.2	28.6	20.7	20.6	25.1	22.1	22.1	16.6
横這い	36.1	33.4	50.0	42.2	46.1	40.7	42.3	40.6	39.5	44.7	45.1	42.2	47.4	53.3	57.6	51.6	50.7	45.0	56.8
悪くなった	40.5	23.9	22.4	26.3	33.0	35.0	35.5	38.8	37.1	27.2	27.9	18.6	24.0	26.0	21.8	23.3	27.2	32.9	26.6
十六景況判断指数	▲ 17.1	18.8	5.2	5.2	▲ 12.1	▲ 10.7	▲ 13.3	▲ 18.2	▲ 13.7	0.9	▲ 0.9	20.6	4.6	▲ 5.3	▲ 1.2	1.8	▲ 5.1	▲ 10.8	▲ 10.0